

1 日目の午前中はディレクトフォース・笹川平和財団の方々のお話を伺いました。

前半は「世界のグローバル化の中で、どう備えたら良いか？」という題材のもと近藤玄大様の講演をお聞きしました。この方がものづくりを始めた理由は、ご自身が左利きで世界中のものは右利き用に作られていて、不便を被っていたので、個々に合うものづくりをしたかったからだそうです。ぼくも左利きで右利きだったらよかったのになあと考えたこともあるのでとても興味深く聞いていました。また、いろいろな人、考え、価値観に触れるともおっしゃっていました。幸い二高生は成績優秀で個性的な生徒がたくさんいるので、今まで以上に積極的に交流していこうと思いました。

後半は、グループセッションとして三人の講師のお話を伺いました。

①守屋雅夫様

この方はキューピーの技術本部長で、和風ドレッシングを初めて作った人だそうです。話を聞いていて印象に残ったのは、和風ドレッシングを作ったというとかっこよく聞こえるかもしれないが自分がやったことは大きな組織の中の専門のことでただけだとおっしゃっていたことです。謙虚な姿勢で仕事をこなされているからこそ、素晴らしい結果がついてくるのかなあと感心しました。また、僕たちへのアドバイスとして、壁にもしぶつかったら、壁の周りでうろちょろしていれば誰かがいつか助けてくれるので、集中力と持続力を鍛えなさいとおっしゃっていました。長い高校生活で勉強や部活をするときにそれを意識して行おうと決心しました。

②藤井麻衣様

この方は国連で働いていたそうです。なので、パリ協定について少し聞いてみると、テレビで報道しているのとは違う視点でお話ししてくださり、世界のことにとても関心があるのだなあと実感しました。ぼく自身もっと世界のことに関心を持ち知識を身につけようと強く思いました。また、英語を勉強しなければ今のグローバル化に対応できないとも思いました。国連でももちろん英語が使われていて、ツールとして英語を使いこなしたいと改めて感じました。

③相馬円香様

この方はご自身で SOMOS&Co という会社を起業されたそうです。起業して代表になって大変なことは、最終的な判断は周りの人がするのではなく自分がすることだそうです。なので孤立的になったり先が見通せなくて不安になることもあるそうです。この方がおっしゃる決断するための秘訣は悔いを持たないことだそうです。また、チャンスをもにする集中力や勢いだそうです。言うことは簡単ですが、実際、悔いを持たないで物事を行う

ことはとても難しいことで、意思が強くなければいけません。この方を見習ってこれからの人生、意思を強く持って行動しようと思いました。

グループセッションをした三人の講師に共通していることは、英語を堪能に話せることです。仕事をして活躍するには、英語をぼくも今から頑張っ、将来ツールとして英語を話したいと強く思いました。普段では聞けないたくさんの話を聞くことが出来て貴重な時間を過ごせたので、このような機会をいただいて感謝しています。

1日目の午後は、企業・大学訪問に行きました。私たち7班は東京医科歯科大学 ゲノム病理学の石川俊平教授にお話を伺いました。初めは話を上手く展開できるか不安でしたが、とても話しやすく気さくな方だったのでたくさんの質問をすることができました。ゲノム病理学では、生物で習ったゲノムの勉強でふれられていなかった、癌とゲノムとを関連させた研究をしているそうです。癌ゲノムを解読する費用は、2001年には100億円と言われていましたが、急激な技術の進歩によって、次世代シーケンサーが登場したことにより今では10万円で解読できるそうです。しかし問題もあって、30億個の塩基の中で異常なものを発見するには、他の人の塩基と見比べなければならず、また、永遠と続く塩基配列の中でこの部分は人の体でいうとどの部分なのかを調べなければならないということです。このことをマッピングと言います。30億個の塩基配列が続くと言うと想像が付きませんが、これは文庫本30000冊、新聞25年分に相当するそうです。どこの塩基が異常なのかを把握できると分子標的治療薬が効いたりいいことがあるので、今では、自分のゲノム解析をしてくださいと頼まれることも多いそうです。しかし、ゲノム解析を一回するのに数日かかるので、時間がかかると言う点で、一般の人にゲノム解析はまだできないそうです。将来はゲノム解析を軸に研究されていくと思うので、医学の発展も担っている学問なんだなあとも思いました。

また、研究するための道具などもみることができました。一番印象に残ったのは研究するのはお金がかかるということです。小さな機械でもとても高価なものばかりだったからです。研究室では癌の細胞を飼育しているそうで、マイナス80度の極寒で冷やしているそうです。その気温だと癌の細胞は永遠に生きるそうで、とても驚きました。実際に癌の細胞を見てみると、癌の形が綿密に分かり、癌の器官がちがうと見え方も全然ちがうことを実感しました。

ゲノム病理学について見て、研究というのはぼくは無縁だと思っていましたが興味を持つようになりました。研究者にたくさんの質問をすることもでき、最後まで話題が付きませんでした。このような機会をいただいてとても感謝しています。

1 日目の夜は二高の OB・OG の方々に話を伺いました。大きく分けて①東大に入って見て
②高校ですべきことの二つを教わりました。

①東大に入って見て

- ・東大には天才しかいないとは限らない。
- ・見かけは普通の人だが、話してみると頭がきれいな人が多く刺激的。
- ・自分の意思を強く持っている人が多い。
- ・勉強を頑張っているというよりは好きな人が大半。
- ・東大に入ってよかったことは、学部を後から選べること。

②高校ですべきこと

- ・英語は単語を覚えることが大事。
- ・国語が苦手な人は、教科書に書いてある文章を信頼してちゃんと読み込む。
- ・東大を受けたい人は本場で一回模擬試験を受けたほうが良い。
- ・計画は細分化して立て、モチベーションを常に高く持つ。
- ・今の自分の魅力を考えてみて、自分の長所を含めて自己紹介をできるようにする。
- ・数学は演習をしまくる。そうすると計算ミスもなくなってくる。
- ・数学、理科は先取り学習が効果的。
- ・とらない科目も自習をしたら、大学で役に立つことがある。
- ・一年生では趣味や、部活に打ち込むのも大事。
- ・勉強をする時刻を決める。
- ・時間が空いたら将来のことについて考えて見て、明確な目標を決める。

先輩方の僕たちへのメッセージには、参考になることがたくさんありました。勉強や高校生活をしていく過程で先が不安になったり、迷ったりしてしまった時は、先輩方のメッセージを見返そうと思いました。また、今は少し時間に余裕があるので、今後ぼくは将来どのようになりたいかをよく考えて明確な目標を決めたいです。

2 日目は東大見学に行きました。様々な企画があった中で印象に残ったことは、農学部の施設見学です。ぼくは農学部とは農業を将来したい人が入る学部だと思っていたので、魚のことについても研究していることに驚きました。実は、農学部とは食料・資源さらに、環境の問題を解決する学問で、総合的な知識が必要なんだそうです。金子教授の研究室では、淡水魚と海水魚がどのように環境に適応しているかを調べているそうです。また、五十嵐教授は、キノコが地球上で唯一木を分解するという事に目をつけて研究しているそうです。どちらの先生も東大でしか出来ないような研究をしていて、農学部にも少し関心を持ちました。

東大見学では、テレビでも見たことがあるほど有名な図書館に行って見たり(二高の図書

館とはレベルが違った)、東大生と個別相談会をしたり、盛りだくさんな内容で、大学を選ぶときの参考にもなると思います。東大とはどんな大学かを実際に行って考えることが出来たので、モチベーションも高まりました。

ぼくがこの 2 日間で学んだことは、世界が広がったということです。このような貴重な体験をさせていただいて、本当に感謝しています。